公益財団法人 会田病院
広報誌

あゆり

特集 パーキンソン病

公益財団法人
会田病院

Vol. 134
2022年7月15日発行

特集 パーキンソン病

寄稿

診療部長兼
脳神経内科部長
内海裕也 医師

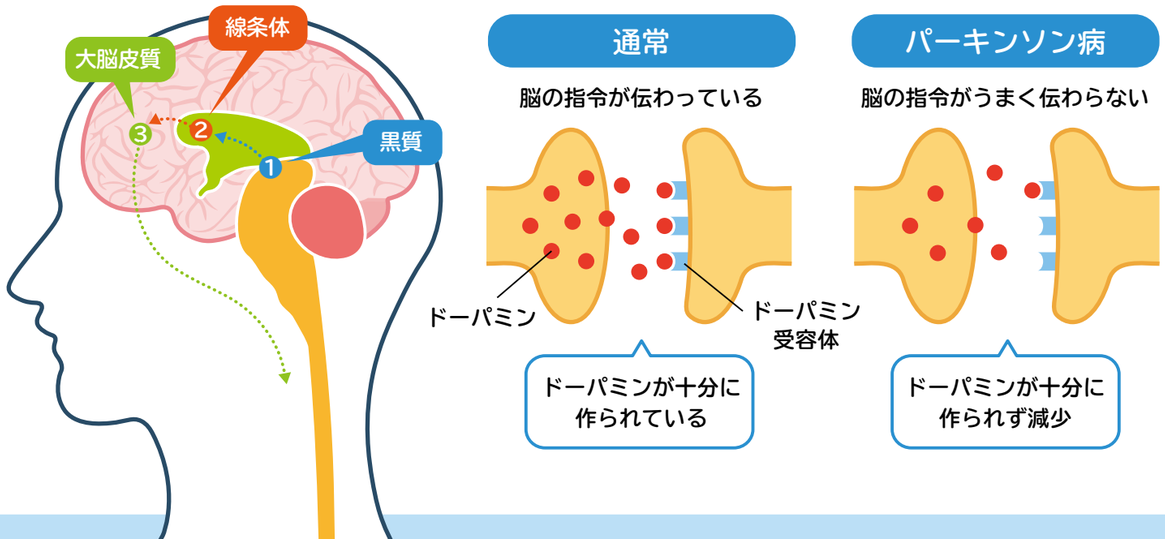
パーキンソン病とは

パーキンソン病は、1817年イギリスのジェームス・パーキンソンが「振戦麻痺」という論文に記載したのが始まりです。

日本では推計で25万人以上の患者さんがいらっしゃると言われています。半世紀前は人口10万人に対して10～15人と言われていましたが、現在では人口10万人に対して200人～250人と考えられています。昔は一般的には馴染みのない病気でしたが、今や脳の病気では脳血管障害（脳卒中）認知症等（脳高次脳機能障害）に次いで3番目に多い疾患となっています。これは経済の発展、国民健康保険の充実により健康に関わる状況が改善した為、平均余命が飛躍的に伸び日本は世界でもトップクラスの長寿国となっていることが結果として高齢者の増大が疾患の増大につながっていると考えられています。65歳以上では数百人に1人の割合で発症しており、最近では一般の方々にも聞いたことのある疾患となってきています。

原因はまだまだ不明な点の多い病気ですが、中脳を中心とした中枢神経で、主にドーパミンという物質で情報のやり取りをしているドーパミン神経細胞内にα-シヌクレインという水に溶けてなくなってしまった異常たんぱく質が蓄積して丁度ごみ屋敷のようになってドーパミン神経細胞が破壊されていくことがわかってきました。この過程は年齢を重ねる度に進行してきますので、年を取ればとるほど進んでいきます。現在ではこの過程を止めるために研究が盛んに行われていますが、まだ有効な治療法には至っていません。

パーキンソン病の症状は昔も今も50～60代で症状が出始めますが、更に平均余命が延び高齢人口が増大してきた為、70代～90代でも症状が出現してくるようになりました。



特徴的な症状

主に4つの症状が代表的ですが目立つのは体の一方（片側）に出現する「ふるえ」です。自分でコントロール出来ない不随意運動の代表的なものですが、静かに手足を動かしていない時に震えてしまう**「静止時振戦」**です。同時に「振戦」の目立つ半身に筋肉が軽く硬直してねばり気が増したような**「筋固縮」**が現れます。更に動作を始めようとした時に時間がかかったり、ろう人形が動いているような動作の遅さ、顔の表情筋のこわばり（仮面様顔貌）や声が小さくなったり、大きく文字が書けない（小字症）などを総じて専門用語では**「無動症」**や、転倒の原因となる姿勢維持が難しくなる**「姿勢反射障害」**が主要兆候といわれます。

他には自律神経の症状として、嗅覚が鈍くなる事や頑固な便秘、立ちくらみの起立性低血圧、排尿がスムーズにいかない排尿困難。精神症状としては幻覚、妄想、記憶障害、睡眠障害などが出現する場合があります。

静止時振戦

何もしていない時や寝ている時に手足が震える

筋固縮

筋肉がこわばり、身体がスムーズに動かなくなる

無動症

素早い動作ができなくなりゆっくりとなる

姿勢反射障害

姿勢維持が難しくなりバランスを崩しやすい

診断および治療

診断には決定的なものはありません。

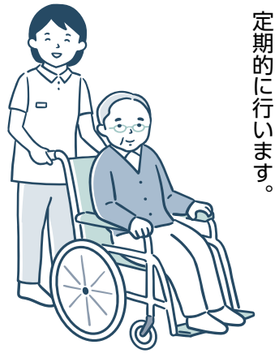
詳しい病気の経過と今ある臨床症状が大変重要です。神経細胞の極小の世界で起こっていることですので、脳のCT、MRIでは判断がつきません。しかしCT、MRIで分かる他の病気がないかチェックする為に検査は実施します。限られた施設でしか出来ませんが、放射性同位元素(ラジオアイソトープ)を使ったドーパミン神経やその仲間であるノルアドレナリン神経の活動度を検査できるDATスキャン、MIBG心筋シンチで診断の精度を高めることが出来るようになってきました。治療は根本的にはドーパミン細胞が消失していく過程にストップをかけたり、新しいドーパミン細胞を京都大学のIPS細胞のように再生して脳の中心に植え込むことが考えられていて研究中ではありますが、まだ人への応用は治験段階の途上です。

治療は現時点では「症状を緩和する」のが目標です。

薬物療法と非薬物療法があります。薬物療法では脳内で少なくなったドーパミンを補充する目的にその前駆物質のL-ドーパを用います。(ドーパミンは経口服用しても脳内に入っていきません)適切なタイミングと量を調整すればかなり以前の状態に回復することができ、現在でも王道の薬剤です。他にも脳内ドーパミンの調整や働きをいろいろなアプローチで改善していく薬剤がL-ドーパとともに使用されています。今でもこれらの薬物治療がパーキンソン病の主要な治療であることに変わりありません。

非薬物療法として脳深部刺激法(Deep Brain Stimulation: DBS)(上限年齢、L-ドーパ剤の効果が十分にあることなど)出来る施設は限られますが、脳の深いところ(大脳基底核)に電極を植え込んで通電することによりパーキンソン症状を改善することができる治療法もあります。

他にパーキンソン病は動作歩行などに困難を生じる疾患ですので、リハビリテーションも大切になってきます。中等症などで動作困難に対し通所リハビリや入院して集中的なリハビリを定期的に行います。



難病申請

パーキンソン病は国から難病に指定されています。一疾患としては国内最大級の羅患数になっていますので昭和時代は診断されれば認定された歴史がありますが、現在はヤール分類という重症度分類があり、中等症以上で歩行に補助介入が必要でかつ、日常生活でも介助が必要であると認定されないと申請条件を満たさなく厳しくなってきております。

他にも幾つかのパーキンソン症候群といわれる疾患群があります。ただしこれらのパーキンソン症候群で確定診断に至ったもの以外は申請受理が困難な状況となっています。

難病申請が可能か否かについても当院脳神経内科にお気軽にご相談ください。

医師紹介

新任

診療部長兼
脳神経内科部長 医師 内海 裕也（うつみ ひろや）

4月1日より脳神経内科に着任致しました内海裕也と申します。1978年東京医科大学を卒業し順天堂大学神経学教室（神経内科）に11年間勤務し、海外留学後、母校東京医科大学病院神経内科を開設し、24年間在籍しておりました。その後、国際医療福祉大学医学部附属塩谷病院(栃木県)を経て、会田病院に勤務させていただく機会を得ました。パーキンソン病、脳卒中を中心に脳・神経・筋疾患を担当させていただきます。地域の皆様の健康推進に貢献できるよう努めてまいります。脳神経に関わる御心配や質問などがありましたら、気軽に御相談頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

外科医長 医師 東條 峰之（とうじょう みねゆき）

4月1日から外科で勤務させていただくことになりました東條峰之と申します。静岡県出身で、東京育ち、2007年に弘前大学を卒業し、宮城県塩釜市の病院で初期研修終了後、2011年より自治医科大学消化器一般外科に所属し、外科治療を中心に診療を行ってきました。

福島県での勤務は初めてで、少しでも早く地域の皆様に馴染み、覚えていただけるよう努めてまいります。

なにかお気づきの点がございましたら気軽にご相談いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

消化器内科 医師 和田 卓也（わだ たくや）

4月1日より消化器内科にて勤務させていただいております、和田卓也と申します。2017年より東京医科大学病院消化器内科に所属しております。

この度は縁があって会田病院で勤務させていただく機会をいただきました。

消化器内科では肝臓疾患をメインに診療しておりますが内視鏡検査なども行っておりますので、胃腸など不安があればご相談いただければ幸いです。

どうぞ宜しくお願い致します。

会田征彦理事長兼院長 令和4年度の各種功労者 知事表彰を受賞

表彰項目は【保険衛生功労者】
1987年（昭和62年）以来34年余り、会田病院理事長同院長として、地域医療の充実や住民の健康増進に努め、保健衛生向上に寄与したとして5月18日、福島市の杉妻会館において内堀県知事より表彰状を授与されました。

6病棟運動会

５月24日に６病棟にてミニ運動会をおこないました。玉入れやバトンリレーのゲームにたいへん盛り上がり、患者様みなさんが楽しまれたようでした。

防煙教室

6月10日に矢吹中学校 1 学年生徒さんを対象に、会田理事長を講師とした防煙教室を開催しました。
未来ある若者に喫煙の害を知ってもらいたく、毎年開催しています。
今年の 1 年生は元気が良く、活発に質問や意見が交わされた防煙教室でした。

NEWS（お知らせ） ✖ INFO（情報） ✖ EVENT（行事）

令和3年度救急医療研修会（オンラインビデオ配信）

3月29日に、福島県病院協会主催の救急医療研修会が開催され、会田征彦理事長兼院長が座長を務められました。

演題「オミクロン株の特性と感染対策」
講師　福島県立医科大学
感染制御学講座 教授 金光敬二先生

永年勤続表彰

矢吹町商工会より勤続22年目の2名が表彰されました。

看護部新人研修

５月 11 日に新人看護師のインジェクション（注射）研修を行いました。初めてなので緊張していましたが、安全に採血や注射を提供できるよう １ つ １ つ確認しながら、不安を与えないように声かけを頑張る姿が見られました。

ご寄附のお願い

株式会社 DNP テクノパック泉崎工場様

当法人の活動に対しご理解とご賛同をいただき、ご支援を賜りたく存じます。寄附金には、税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

［ホームページ］
http://aida-hp.or.jp/aboutus/donation/
ホームページQR▶

行事食紹介 お花見

お品書き

- 菜の花ごはん
- キャベツの重ね蒸し
- （付け合わせ）チンゲン菜炒め
- わらびのごま炒り
- フルーツ盛り合わせ（オレンジ・いちご）

4月の行事食として桜御膳を提供しました。お花見ができない患者様にも、春を感じていただけるよう、菜の花やわらび・筍など春らしい食材をたくさん使用した献立としました。菜の花とスクランブルエッグで、鮮やかに咲く黄色の菜の花を連想させるような盛り付けにより、目で見て楽しんでいただけるような工夫をしました。
初めて提供するメニューばかりでしたが、患者様からは好評で「いつもと違うメニューで新鮮だ。」「春らしくてたまにはいいね。」などの感想をいただきました。

写真は1日あたり1800kcal 献立内容となっております。

1日5分、身体喜ぶ贅沢タイム

【座ったまま1分】腰痛ストレッチ

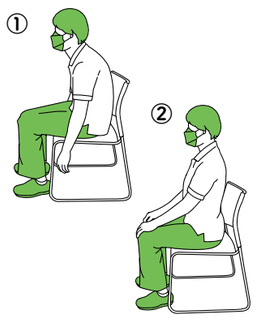
悩んでいる方も多い腰痛ですが、85%は原因不明であると言われています。原因の1つとして挙げられるのが「骨盤の歪み」です。腰痛ストレッチには血流を良くし、筋肉を柔らかくすることで、骨盤や股関節の歪みを修正する効果があります。腰やお尻、太ももなど大きな筋肉を動かすことで太い血管が刺激され、体内の血流が良くなり、疲労除去やリラックス効果が期待できると言われています。

猫背×鳩胸ストレッチ

①浅めの椅子に座り、背中を丸めて猫背をつくる

②胸を反らして鳩胸をつくり、ゆっくりと深呼吸しながら20秒繰り返す

※骨盤を起点にして行うことを意識する。



4の字お辞儀ストレッチ

①椅子に座り片足を膝の上に乗せ4の字をつくる

②背中をまっすぐに伸ばしたままお辞儀する

③深呼吸しながら足を組み替えて左右10秒行う

※背中が丸くなるのはNG!!!

AIDA no HITO

「より良い職場環境を目指して」

人事・経理課　主任
一般事務　芳賀　幸代

人事・経理課は、財務や経理、給与や採用、教育などを担当している女性4人の部署で、外来棟2階の事務所の中にあります。その中で、私は①病院理念や目標達成のための人材確保②人材を活かすための仕組みや環境の整備など人事分野を担当しています。人事の仕事は採用から評価、育成、環境構築など幅広く、難しいと感じることは多々あります。しかしそれと同時に、直接医療に携わることはありませんが、一緒に働く仲間をサポートできるやりがいも感じています。少子高齢化が進み、法律や働き方はどんどん変わってきており、日々情報収集すること、学習すること、柔軟に考えることの大切さを実感しています。

人事担当になってから、沢山の職種や部署の職員と話が出来る機会が増えました。円滑なコミュニケーションは労働生産性や働く上での満足度を高めることが出来ると考えています。職員の頼れる身近な相談相手になれるように、これからも精進していきたいと思います。

スタッフ募集中

共に働くスタッフを募集しています。地域に根ざし、愛され、心が通う病院づくりに積極的に取り組み、地域社会に貢献したいと思っています。募集内容は当院ホームページをご覧ください。

[お問い合わせ]人事・経理課
[電話]0248-42-2121
[メールアドレス] ahp@aida-hp.or.jp
[ホームページ]
http://aida-hp.or.jp/recruit/

特集 言語聴覚士

4回にわたる特集の第2回、今回のテーマは「嚥下障害」についてです。嚥下障害や食べる事の大切さについてお伝えしていきます。

嚥下とは

食べ物を口の中で噛み、飲み込みやすい大きさに変えて口から喉、食道を経て胃に送り込む一連の流れのことをいいます。

嚥下障害とは

噛めない、飲み込めない、むせてしまうなど、口からうまく食べられない状態のことをいいます。

嚥下障害が起こりやすい人

❶病気で体が弱っている
全身状態が悪化している時には、食べる力も衰えてしまいます。食べられない状態が続くことで、さらに体が弱ってしまうことがあります。

❷脳卒中の経験がある
食べ物を飲み込むには、脳の働きが重要です。脳の機能が損なわれることで、運動麻痺などにより、飲み込むことができなくなってしまうことがあります。

❸75歳以上
高齢になることで、加齢以外のリスクも抱えやすくなります。

❹認知機能の低下
目の前のものを食物と認識できないなど、認知機能の低下が食べることを難しくしてしまうことがあります。

嚥下障害のサイン

1つでも当てはまる様子が見られる場合は注意が必要です

咳・痰・声の変化

□よく咳や痰が出る
□痰に食べかすが混じっている
□食事中によくむせる
□会話中にむせることがある
□夜間、咳き込むことがある
□食事のあと、がらがら声になる

食事のトラブル

□飲食すると喉に違和感がある
□飲食すると胸が詰まったような感じがする
□食べこぼしが多い
□飲み込んだあとも、口の中に食物が残ってしまう
□過去に、食物を喉に詰まらせたことがある

食生活の変化

□食事に長い時間がかかるようになった
□軟らかいものを好むようになるなど、食事の好みが変わってきた
□食べることに疲れてしまい残してしまう

気になる様子

□体重が減少してきた
□水分を摂りたがらない
□発熱を繰り返したり、微熱が続いている

嚥下障害による影響

窒息

気道が食物などによりふさがれ、呼吸ができなくなることをいいます。

誤嚥

唾液や食物、胃の逆流物が誤って気管に入ってしまうことをいいます。これにより、誤嚥性肺炎を引き起こすこともあります。

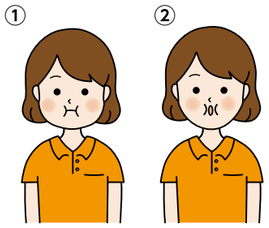
誤嚥性肺炎

誤嚥により肺の中で細菌が繁殖し、炎症を起こすことで起こる肺炎のことをいいます。

座ったままやる嚥下体操（8秒×8回）

いつまでもおいしく、安全に食べるための口腔体操をご紹介します

顔の体操

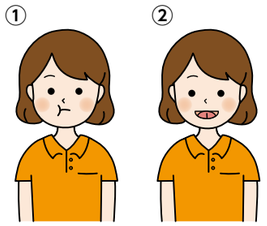


①頬を膨らませます
②今度はゲッソリと頬を凹ませます

顎持ち上げ体操

顎を引いて頷きますが、頷けないように親指で抑えて抵抗します

舌の体操



①頬の内側をぐりぐり押します（アメを舐めるフリ）
②舌を上顎にぐーっと押し付けます

口から食べる事の大切さ

生きる喜びが持てる

食べることは、生きていくために必要な行為です。色鮮やかな食事を見たり、いい匂いの食事を前にすることで、「食べたい」という気持ちが生まれます。それが満たされたとき、大きな満足感を得ることができ、生きる喜びにつながります。

脳が活性化する

彩よく温かな食事、おいしそうな匂い、噛んだときの触感、味わいなど、食べるということは五感を刺激し、脳を活性化させます。

消化管の活動が盛んになる

五感が刺激されることで、胃や腸などの消化管は食物が入ってくる前から受け入れ準備を始め、消化吸収が促進されます。

唾液の分泌が促される

「おいしそう」と感じたり、噛み、味わうことで、唾液の分泌が促されます。唾液には消化を助け、口の中の汚れを洗い流したりするなど、様々な働きがあります。

いかがでしたでしょうか？皆様にとって「嚥下障害」について知る、良い機会になれば幸いです。当院では、現在6名の言語聴覚士が在籍しており、日々、嚥下障害の患者様の評価、訓練を行っております。

会田病院の理念

かけがえのない、ひとり一人の命と
健康を守るために、最良の医療を提供し、
保健・医療・介護・福祉の充実をはかり、
地域社会に貢献します。

公益財団法人
会田病院

理事長　会　田　征　彦

〒969-0213 福島県西白河郡矢吹町本町216番地
☎ 0248-42-2121
FAX 0248-42-2348　WEB aida-hp.or.jp

併設 **健診センター**
〒969-0213 福島県西白河郡矢吹町本町216番地
TEL 0248-42-3592 FAX 0248-42-2226

併設 **すみれ訪問看護ステーション**
〒969-0213 福島県西白河郡矢吹町本町198番地
TEL 0248-44-2566 (FAX兼)

併設 **会田病院指定居宅療養管理指導事業所**
〒969-0213 福島県西白河郡矢吹町本町198番地
TEL 0248-42-5407 (FAX兼)

併設 **すみれ介護相談センター**
〒969-0213 福島県西白河郡矢吹町本町198番地
TEL 0248-42-3755 FAX 0248-42-3781

併設 **会田通所リハビリテーション**
〒969-0213 福島県西白河郡矢吹町本町260番地
TEL 0248-42-2260 FAX 0248-42-2135

無料送迎バスのご案内

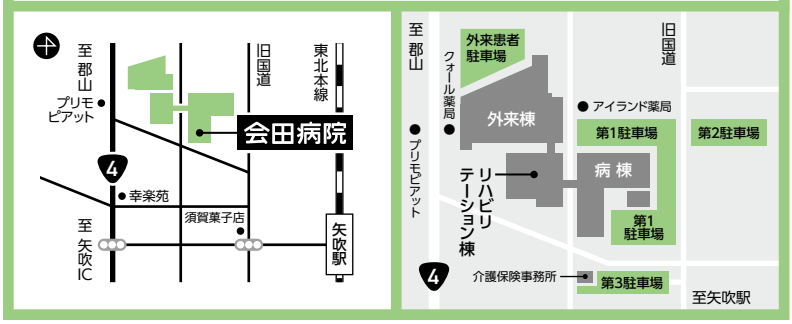
会田病院では、ご自宅と病院を無料でつなぐ送迎バスを運行しています。ご予約は下記までお気軽にお電話ください。

ご予約時間	月～金 13:00～16:30 ｜ 土 9:00～12:00

ご予約はコチラ　0248-42-2142

- ご予約は送迎前日の午後4時30分までにお願いします。
- 乗車時間はご指定いただけません。

アクセスと駐車場のご案内



外来診療担当について

外来診療担当は、当院のホームページにてご確認いただくか、院内で配布している「外来診療担当のご案内」をご覧ください。

[ホームページ]
http://aida-hp.or.jp/attending/

ご意見ご感想を募集中です

「あゆり」に関するご意見、ご感想を募集しております。特集してほしい内容や改善ポイントなど内容は問いません。宛先は下記の通りです。

[宛先] 福島県西白河郡矢吹町本町216番地
公益財団法人会田病院 広報編集委員会
[メールアドレス] ahp@aida-hp.or.jp

[発　行]
公益財団法人会田病院

[編　集]
広報編集委員会

[発行日]
2022年7月15日